

## 27年1月分 製品市場の荷動き・価格先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成26年 12月20日～ 27年1月10日

## 2. 調査実施方法

全国の製品市場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。  
1月分の回答企業数は9社である。

## 3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2  
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

## 4. 調査結果の概要

## (1) 荷動き動向 Weight. D. I.

品目		27/1月	2月	3月
入荷動向	国産材製材品	△ 16.7	△ 16.7	11.1
	外材製材品	△ 33.3	△ 33.3	△ 16.7
	その他	△ 12.5	△ 12.5	6.3
販売動向	国産材製材品	△ 27.8	△ 27.8	△ 11.1
	外材製材品	△ 11.1	△ 16.7	0.0
	その他	△ 25.0	△ 25.0	△ 8.3
在庫動向	国産材製材品	△ 5.6	0.0	△ 5.6
	外材製材品	△ 22.2	△ 22.2	△ 16.7
	その他	△ 10.0	△ 10.0	△ 10.0

・国産材製材品の入荷は1月、2月の減少が3月には増加、外材は3ヵ月連続して減少、その他は1月、2月の減少が3月には増加。

・製材品の販売は、3月に外材が横ばいなのを除いてどの品目も減少。

・製材品在庫は国産材が2月の横ばいを除き、どの品目も減少。

## (2) 価格動向 Weight. D. I.

品目		27/1月	2月	3月
スギ	柱角 KD10.5×3	5.6	0.0	△ 5.6
	柱角 KD12×3	0.0	△ 5.6	△ 5.6
	通し柱 12×6	0.0	0.0	0.0
	桁角	0.0	△ 5.6	△ 5.6
	母屋角	11.1	0.0	△ 5.6
	タルキ	0.0	0.0	△ 5.6
	間柱	5.6	△ 5.6	△ 5.6
	加工板	0.0	0.0	0.0
	ヌキ	0.0	0.0	0.0
	平割	0.0	0.0	0.0
ヒノキ	柱角 KD10.5×3	△ 11.1	0.0	0.0
	柱角 KD12×3	△ 11.1	0.0	0.0
	土台角 10.5×4	△ 11.1	0.0	0.0
	土台角 12×4	△ 11.1	0.0	0.0
	通し柱 12×6	△ 6.3	0.0	0.0
カラマツ土台角10.5×4	0.0	0.0	0.0	
米マツ平角	37.5	25.0	18.8	
米マツ割物	43.8	31.3	25.0	
北洋エゾマツタルキ	12.5	12.5	12.5	
北洋アカマツタルキ	31.3	18.8	25.0	

・スギ製材品の価格は総じて保合で推移、一部品目は3月にやや弱保合。

・ヒノキ製材品は1月にやや弱保合が2月、3月は横ばいに。

・カラマツ土台角は3ヵ月連続して横ばい。

・米マツ平角、米マツ割物、北洋エゾマツ及びアカマツタルキは強保合で推移。

## モニターからのコメント

(荷動き)

- ・入荷は変わらず。販売は低調続く。荷動き自体が少ない。
- ・原木の出材状況が大雪の影響もあり非常に悪く、原木凍結もあり、生産状況も悪い。販売は市況低迷が続き売上げは前年割れが続いている。
- ・入荷は、スギ、ヒノキ共に順調、外材は入港減と港湾在庫減少で品薄材が増加。国産材販売は原木高の製品安の傾向が続いている。外材は円安の影響からの先高感から川上でのみ販売増加。スギ、ヒノキ共に在庫は安定、外材は回転が良く、在庫は減少傾向。
- ・国産材入荷順調、外材アカマツ、WW、米ツガ入荷順調。国産材、外材共に仕事始めて動き悪く、後半に期待。在庫は国産材、外材共に記念市用に増加気味。
- ・円安で外材（WW、米マツ）が値上がりする。需要が少ないため大幅な値上げは出来ない。
- ・新築着工数が伸びず、今後も増える見込みがないため、入荷も現状維持が大半。販売は中京地区は例年よりも減少、新築数が減っていることが原因。在庫を減らしてもこと足りる状況、急な注文がないため今の在庫で間に合う。

(価格動向)

- ・スギ変わらず。ヒノキは低調の極み。
- ・スギは原木高止まりが続き、製品値上げ要請はあるが市況低迷で通らない状況。ヒノキは原木がスギより低水準で市況低迷もあり、若干の弱含み。米マツは円安の影響で上げの状況。
- ・スギ構造材は今後需要減の時期に入るので価格は弱含みとなりそう。スギ羽柄材は東北、日本海側の大雪の影響で、生産が大幅に減少、価格は保合。ヒノキ構造材の価格は安値で続きそう。米マツは円安の影響が本格化しておりコスト高の状況が続く。北洋エゾマツタルキ、アカマツタルキは良材のメーカー品より在庫減となっているが全体的に保合。
- ・スギ柱角（KD10.5cm、12.0cm）60,000円/m<sup>3</sup>、スギ桁角（東北グリーン材）40,000円/m<sup>3</sup>、母屋角（東北材）40,000円/m<sup>3</sup>、スギタルキ（東北材）45,000円/m<sup>3</sup>、スギ間柱（KD）66,000円/m<sup>3</sup>、スギ加工板（グリーン材）束2,800円、（KD）束3,800円、スギヌキ（東北）40,000円/m<sup>3</sup>、（秋田）50,000円/m<sup>3</sup>、スギ平割（プレーナー）45,000円/m<sup>3</sup>、（ラフ）38,000円/m<sup>3</sup>、ヒノキ柱角・土台角（KD）85,000円/m<sup>3</sup>、米マツ平角KD68,000円/m<sup>3</sup>、米マツ割物AD65,000円/m<sup>3</sup>、北洋アカマツタルキ（S）68,000円/m<sup>3</sup>、（P）58,000円/m<sup>3</sup>。
- ・スギは販売弱し。ヒノキは販売弱し。米マツは12月に一度まとめて販売したので現状維持。北洋タルキは現状維持。